

第3章

調査方法

3.1 調査体制

今回の調査では2008年同様1998年の調査とは異なり、一般市民に広く参加を呼びかけ人海戦術により短期間で広範囲を調査するという方法ではなく、前回の調査で各地区の取りまとめを担ってくれた主要メンバーを中心に、調査内容を絞り、前回及び前々回の調査結果の追跡調査を主目的に行った。各地区毎の分担代表者は表3.1のとおりである。主として2017年から2019年の2月から5月までの期間に調査を行った。

前回までの調査結果をまとめた産卵場毎の調査票と産卵場の分布地図(2.5万分の1)を各地区ごとに用意し、分担代表者に配布した。地区ごとに、前回の調査で確認された既知の産卵場の状況を重点的に調査し、産卵状況を報告してもらった。調査方法は原則として前回(2008年)の調査時と同様の手法を踏襲し[61]、効率よく迅速に情報交換をするために、電子媒体を利用した情報収集を試みた。PDFファイルで調査票の原票を作成し、Adobe Readerを用いて必要事項を調査票に記入してもらい、即座にインターネット経由で送付してもらおう事ができるように工夫した。また、PDFファイル以外に、同様の書式をExcelファイルでも用意した。

なお、具体的な調査手順等に関しては、前前回1998年の調査と基本的に同じ手法を用いた。詳細については前前回の調査報告書[60]の3.2 トウキョウサンショウウオ調査マニュアルの項を参照のこと。

表3.1: 調査分担代表者。丘陵の位置に関しては図3.1を参照。

地区	地域	担当者	
狭山	狭山丘陵	古川 嘉勇・原島 真二	
青梅北	加治丘陵	御手洗 望	
多摩中核	草花丘陵	青梅市	久保田 繁男・佐久間 聡・御手洗 望
		日の出町	川上 洋一
		あきる野市	パブロ アパリシオ・小澤 祥司
	大久野山地	草野 保	
	伊奈丘陵	日の出町	草野 保
		あきる野市	パブロ アパリシオ・佐久間 聡
	五日市周辺	パブロ アパリシオ	
	秋川周辺	パブロ アパリシオ	
	加住丘陵	五味 元	
	川口丘陵	五味 元	
多摩丘陵	多摩丘陵	塩谷 暢生・土屋 学	

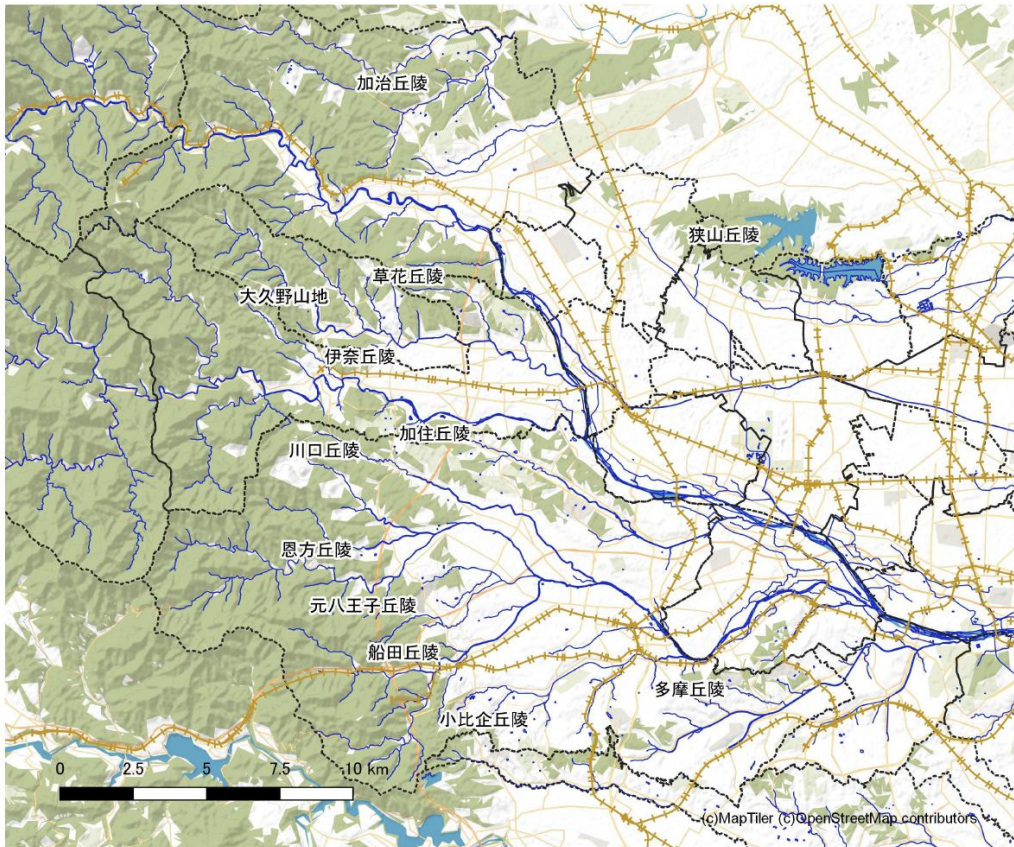


図 3.1: 東京都多摩地区の丘陵の地図。

3.2 調査表記入項目

3.2.1 調査地・調査者関連

1. 産卵場番号

既存の産卵場にはすべて地区ごとにアルファベット一文字と数字で番号を割り当ててあるので、その番号を記入する。新規産卵場の場合は、空欄としこちらでまとめて新しい番号を割り振った。

2. 調査地名・行政地区名

市町村は、東村山市・東大和市・武蔵村山市・瑞穂町・青梅市・あきる野市・日の出町・八王子市・日野市・稲城市・不明から選択。

3. 調査年月日

4. 調査者名・所属団体名

3.2.2 観察データ

1. 確認個体数

卵囊・幼生・成体♂・成体♀・成体（性別不明）・死体ごとに確認数を記入する。卵囊は対数ではなく、個数そのものを記載する（1対ではなく2卵囊）。外来生物による捕食被害も想定されるので、死体についても報告する。

2. 前回 2008 年調査との比較

ほぼ同じ者が担当している場合が多いので、前回との比較を記入してもらおう。不明・増加傾向・ほぼ変わらず・減少傾向・絶滅・新規発見から選択する。

3. 個体数の信頼度

調査の信頼度について、不明・ほぼ把握できた・目安程度・繁殖の有無のみ確認の4項目の選択肢から選択。

4. その他（自由記述）

3.2.3 地形・生息環境

1. 地形

不明・尾根・斜面・谷凹地・平坦地・山際より選択。

2. 地形の向き

北・北西・西等の8方位から選択。

3. 土地環境

常緑広葉樹林・落葉広葉樹林（管理中）・落葉広葉樹林（放置）・針葉樹林・竹林・林道路傍・水田（耕作中）・休耕田・水路畦（管理中）・水路畦（放置）・その他の適切な箇所にチェック。複数項目選択可能。その他（自由記述）。

4. 水環境

不明・水田水路・湿地・溪流沢（流速速い）・溪流沢（流速遅い）・湧水から選択。その他（自由記述）。

5. 止水産卵場のサイズ

不明・1m²以下・1-10m²・10m²以上より選択。

6. 水深（cm）

トウキョウサンショウウオ調査票 2018年(PDF入力用)

既存の産卵場の場合				
既存産卵場番号	調査地名	行政地区名		調査日(年月日)
		市町村		
***	***	日の出町		2019-03-15
標高(m)				
新規産卵場の場合				
新規産卵場番号 (空白のまま)	調査地名	行政地区名		調査日(年月日)
		市町村		
		日の出町		
調査者氏名	所属	連絡先(住所、メールアドレス等)		
草野 保		JCF00726@nifty.com		
観察データ		繁殖個体数の傾向		
確認個体数		2008年調査と比較	個体数の信頼度	
卵のう	12			
幼生		減少傾向	ほぼ把握できた	
成体♂				
成体♀		その他 (自由記述)	イノシシのヌタ場化。水路ほとんど消失。唯一最上流部のくぼみにわずかに水場。	
成体(?)				
死体				
その他 (自由記述)				
地形・環境				
調査地の地形		向き		
斜面		北		
土地環境		該当箇所にチェック	該当箇所にチェック	
常緑広葉樹林	<input type="checkbox"/>	水田(耕作中)	<input type="checkbox"/>	
落葉広葉樹林(管理中)	<input type="checkbox"/>	休耕田	<input checked="" type="checkbox"/>	
落葉広葉樹林(放置)	<input type="checkbox"/>	水路・畦(管理中)	<input type="checkbox"/>	
針葉樹植林(スギ・ヒノキ)	<input checked="" type="checkbox"/>	水路・畦(放置)	<input checked="" type="checkbox"/>	
竹林	<input type="checkbox"/>			
林道路傍	<input type="checkbox"/>			
その他 (自由記述)				
水環境		止水産卵場のサイズ	水深(cm)数値を入力	
湿地		1 ~ 10 m ²	1	
その他 (自由記述)	駐車場の裏、水少ない。			

調査票の送付先: PDFで入力した場合は、そのままファイルを下記のアドレスまで。手書きの場合は、調査票を下記の住所のまで郵送してください。

E-mail: JCF00726@nifty.com
 郵送: 214-0001 川崎市多摩区菅4-9-26 草野 保

図 3.2: 今回のトウキョウサンショウウオ調査の際使用した調査表の一例 (PDF ファイル)。2008 年調査時の調査票を流用した。